

旅行部会

冬の青森の旅

今回の旅行部会は、目黒稲門会設立20周年記念旅行との位置づけで、クラブツーリズム「ゆっくり出発 早目のお帰りで楽しむみちのくの2泊3日の旅」で催行されました。

目黒稲門会の参加者は、記念旅行で21名の多数の方々が参加。シニアに優しいゆっくりの出発、羽田定刻13時15分に出発、青森空港14時35分着。

ホテルの迎いのバスで、初日の宿泊宿・南田温泉「ホテルアップランド」に無事到着。

沢山のリンゴを浮かべたリンゴ風呂温泉、青森名産のホタテと名物のせんべい汁、そこここに「リンゴ」を使った料理を満喫し「青森の味覚」を堪能。

元気印の皆さんは、寒さをものともせずカラオケで、さらに青森の夜を満喫されたようでした。

2日目は、バスガイドの青森の紹介—人口125万人、面積は東京・神奈川・千葉を合わせた広さである事、弘前の桜には290万人の観光客、リンゴの生産が全国の5割、長野が3割で日本一—などの説明を聞きながら、車窓から見る岩木山・津軽富士の美しい姿を眺めるうちに、日本一長い木造の三連太鼓橋に到着。



丹頂鶴自然公園での丹頂鶴の見学・散策し、例年より少ない雪の太鼓橋を慎重に渡り、かすむ岩木山をバックに写真を撮をパチリ。

次の目的地、文豪太宰治のゆかりの金木町の太宰治記念館「斜陽館」を見学。この斜陽館は明治40年に大宰治の父・津島源右衛門の建てられた豪邸の素晴らしいもので、過っての大地主・貴族議員を務めた政治家・企業家のすごさが、和洋折衷の建物の素晴らしさ・豪華な仏壇や家具類などが各部屋に見られただけでなく、このような太宰治の置かれた環境が忍ばれ、太宰治の作品に影響を与えたのではと感じられた、私にとって味わい深い貴重な施設見学となりました。

次に2日目の第2イベント、津軽鉄道の「ストーブ列車」で五所川原から津軽中里までの20数分間の旅。列車内のだるまストーブで焼いたすまめの香りと味を満喫、女性乗務員の津軽色豊かなアナウンスを楽しみつつ、次なる2日目の宿泊宿「ホテル星野リゾート青森屋」に到着。

青森屋では、グレードの高いバイキングに舌鼓を打ち、食後にねぶたが飾られた舞台での津軽三味線と民謡、女性職員のスコップ三味線の余興と味わいながら、旅2日目を楽しく終えました。



3日目は、前日の好天とは打って変わって、バスで雪の八甲田へ！ロープウェイで吹雪の山頂駅に！

山頂は吹雪で何も見えず、これまで青森の「暖かさ」を味わってきた身に、ようやく北国青森を実感させられ、耳に痛さを感じる程の八甲田の寒さを味わい、これまで実感のなかった「八甲田雪中行軍遭難」の厳しさに想いを馳せる旅となりました。

最後は八甲田で冷えた体を「酸ヶ湯」温泉で癒し、青森空港を15時20分発・羽田に16時45分頃に無事到着。稲門会20周年記念旅行会を無事に、楽しく味わい深く終える事ができました。



井村部会長様はじめ参加された皆様にお世話になり、盛り沢山の記憶に残る楽しい「旅」をありがとうございました。

(安藤 嘉昭 記)